

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST. (2018)93(6) December 2018

GSJ コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会

<https://gsj3.org>



目 次 頁

2019年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い 3

創立100周年記念事業「遺伝学の百科事典」作成開始！ 4

第1回日本遺伝学会春季分科会「遺伝学の将来を考える」のご案内 5

大会ニュース（その2） 6

ISEGB 2018 派遣学生 体験記 8

日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い 11

2019年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書 12

2019年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書 14

本 会 記 事

会員異動 16

2019年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い

平素より皆様には日本遺伝学会の発展に対し、いろいろとご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2019年度日本遺伝学会年会費を、下記郵便振替口座までご納入下さいますよう、よろしくお願いいたします。なお、年会費のご納入をクレジットカードにてお支払いいただく場合、ご利用方法の詳細を学会 HP の各種手続きをご参照くださいますようお願いいたします。

普通会員 2019年度年会費 10,000円

(注) 定年退職して常勤職でなくなったことを申し出た場合は6,000円

普通会員（学生） 在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは初年度の会費を免除し、2年目以降は3,000円

(注) 普通会員（大学院）の方は、振替用紙の通信欄に、指導教員の署名が必要です。

シニア会員 永年会費 30,000円

(注) シニア会員の方は、以降の会費納入は不要です。

準会員 2019年度年会費 2,000円

(注) 高等学校等の教育機関の教員および大学学部生の方。学部生は振替用紙の通信欄に、指導教員の署名が必要です。

—— 法人化に伴い口座が変わりましたので、ご注意ください。 ——

●郵便振替の場合

口座名義 日本遺伝学会

口座番号 00890-1-217316

●他の金融機関（ATM）から、ゆうちょ銀行の口座へ振込・振替をされる場合

***** 他金融機関からの振替口座番号 *****

・店 名 ○八九（ゼロハチキュウ）

・預金種目 当座預金

・口座番号 0217316

*お手数料に420円がかかります。

創立100周年記念事業「遺伝学の百科事典」作成開始！

日本遺伝学会は2020年で創立百周年を迎えます。その記念行事の1つとして、丸善より「遺伝学の百科事典」を出版いたします。

本事典では次の2つを目指します。

1. 遺伝学会100年の節目に、日本の研究者のこれまでの貢献をしっかりと含めた、そして読んでも面白い事典の作成。
2. 多くの日本の遺伝学関係者に執筆していただき、遺伝学の普及と教育に寄与する。

会員の皆様には執筆をお願いすることもあるかと思いますが、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

編集委員：(順不同、敬称略)

桂 勲，花岡文雄，真木寿治，斎藤成也，高畑尚之，印南秀樹，颯田葉子，荒木弘之，岩崎博史，菱田 卓，菅澤 薫，荒木喜美，平田たつみ，米川博通，城石俊彦，井ノ上逸郎，中別府雄作，池内達郎，山元大輔，小出 剛，北野 潤，平野博之，佐藤 豊，野々村賢一，仁木宏典，篠原美紀，岡穆 宏，片山 勉，五條堀孝，遠藤俊徳，鈴木善幸，角谷徹仁，沖 昌也，一柳健司，佐渡 敬，榎屋啓志，松浦悦子，澤村京一，米澤義彦，深川竜郎，杉本道彦，長谷川政美，関根靖彦，那須田周平，池村淑道（編集幹事），小林武彦（編集長）

第1回日本遺伝学会春季分科会 「遺伝学の将来を考える」のご案内

日本遺伝学会初めての試みとして「春の分科会」を国立遺伝学研究所で開催いたします。遺伝学や遺伝学会の将来を若手に考えていただけるような会にしたいと考えています。是非ご参加ください。

日 時：2019年3月8日（金）13：00～17：00（17：30から懇親会）

会 場：国立遺伝学研究所 講堂

プログラム：

- 研究基調講演 北野 潤 国立遺伝学研究所教授
- 研究基調講演 大島正伸 金沢大学がん進展制御研究所教授
- ポスター発表会
- 「遺伝学の将来を考える」公開討論

日本遺伝学会員以外の方の参加も歓迎します。遺伝学研究所を訪問したい方、遺伝学の将来を担うみなさんの参加をお待ちしています。

大会費無料

参加登録 2019年3月1日（金）（当日参加も可）

ポスター発表の登録は締め切りしました。

情 報 サ イ ト：https://gsj3.org/branch_2019/

分科会のチラシ：<https://www.nig.ac.jp/nig/pdf/event/20190308idengakkai.pdf>

参加登録サイト：<https://goo.gl/forms/DQNsmEcuSEzfDeVp1>

日本遺伝学会第91回大会ご案内

先にご案内しましたように、本年度の大会は福井大学文京キャンパスを会場に開催されます。

=====

会 場：福井大学文京キャンパス（〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号）

会 期：2019年9月11日（水）、12日（木）、13日（金）

企 画（予定）：

一般講演（口頭発表） 9月11日（水）午前
12日（木）午前
13日（金）午前

ポスター発表（学部生・博士前期課程大学院生を対象）
9月11日（水）午後

ポスター発表（高校生を対象） 9月11日（水）午後

ワークショップ 9月11日（水）午後、9月13日（金）午後

プレナリーワークショップ 9月12日（木）午後

国際シンポジウム 9月13日（金）午後

シンポジウム 9月11日（水）午後

総会・受賞講演会等 9月12日（木）午後

ナイトゼミナール 9月11日（水）夕方

懇親会 9月12日（水）夕方

市民公開講座 9月14日（土）午後

申し込み：参加と講演の申し込みは例年通りホームページからとします。

講演申し込み・要旨受付締め切り 6月28日（金）

事前参加申し込み締め切り 7月31日（水）

【第91回大会参加費、懇親会費】

	事前参加登録（7月31日まで）		当日参加登録	
	参加費	懇親会費	参加費	懇親会費
一般会員	8,000円	6,000円	9,000円	7,000円
学生会員	0円	3,000円	0円	4,000円
一般非会員	10,000円	7,000円	11,000円	8,000円
学生非会員	0円 (予稿集は当日実費販売)	4,000円	0円 (予稿集は当日実費販売)	5,000円

*事前参加申し込みの方は、添付の参加振替用紙をご利用ください。

*大会参加費、懇親会費を郵便振込される場合は、払い込まれた方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。

★ワークショップへの応募は締め切りました。ご応募いただきありがとうございました。
詳細は随時下記大会 **HP** でご案内します。
【大会 HP】 <https://sites.google.com/site/gsj91am/1>

皆様には是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日本遺伝学会第91回大会実行委員会
大会委員長 村井耕二（福井県立大学）
大会副委員長 沖 昌也（福井大学）
連絡先：日本遺伝学会第91回大会事務局
ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp

ISEGB 2018 派遣学生 体験記

日本遺伝学会では台湾・日本間の学生の相互交流の一環として、2014年度から Taiwan Society of Evolution and Computational Biology が毎年開催する International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics (ISEGB) に学生2名を選考し、派遣して参りました。これまで、派遣された学生から日本遺伝学会に報告書を提出していただいておりますが、今年度より GSJ コミュニケーションズに派遣体験記として掲載することにいたしました。台湾でのシンポジウムの様子や研究室訪問での経験など報告いただきました。2019年度も派遣学生を公募する予定ですので、皆さん、この体験記を参考にふるって応募ください。

企画集会幹事 中別府雄作

ISEGB 2018 派遣学生 活動報告書

総合研究大学院大学生命科学研究科

遺伝学専攻博士課程前期2年

山下 永香

日本遺伝学会からの派遣学生として、2018年10月20日と21日に開催された ISEGB2018 に参加した。ISEGB は「International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics」の略で、進化や分子生物学、バイオインフォマティクスに関わる研究発表を行う台湾の国際会議だ。私は6日間台湾に滞在し、前半は ISEGB2018 に参加及びポスター発表、後半は国立台湾大学の Dr. Chau-Ti Ting と Dr. Cheng-Ruei Lee の両氏の研究室を訪問した。学会の全体の参加者数はおそらく200人程度の比較的小規模な会議であり全ての発表は英語で行われた。発表内容は進化理論から生物多様性、分子生物学に関する研究まで多岐にわたっており、充実した内容だった。特に Dr. Chung-I Wu と Dr. Wen-Hsiung Li が会場の前の方の席から厳しい質問をしていたのが印象的だった。

私がまず感じたのは、様々な研究分野に興味を持つことの重要性だ。Dr. Chau-Ti Ting の研究室に訪問した時には修士課程の授業の一環であるセミナーにも参加した。そのセミナーはショウジョウバエのシナプスの発達と成熟に関する発表で、正直言って全く馴染みのない分野だった。しかし、私と同じように馴染みのないはずの同世代の学生が次々と英語で質問しているのを見て、異分野の発表もコミュニケーションを諦めてはいけなさと学んだ。実際、Dr. Chau-Ti Ting はそれを意図してこのセミナーを授業の中に組み込んでいる。Dr. Chau-Ti Ting とお話しする中で、研究発表は話者の一方的な情報伝達ではないのだから相互的なコミュニケーションが最も重要で、それは専門分野ではない場合にも言えることなのだ、と学んだ。

台湾での博士課程修了後の就職状況についても伺った。台湾では IT 産業が急速に発展している代わりに農業の割合が年々減少している。そのため、政府が生物・農業分野に割く研究費が削減されていてアカデミアに残る博士学生は少なく、大手企業の研究職に就くあるいは全く関わりのない分野に職を持つケースが多いらしい。台湾の大学で学位を取った学生が研究者として生き残れるほどの就職先がないことが現状の問題なのだろう。



国立台湾大学の Dr. Cheng-Ruei Lee の研究室からの景色

ただ、台湾の教育・研究基盤を強固にして大学教育を発展させようという意欲が、少なくとも進化生物学分野ではとても高いらしい。国立台湾大学の教授陣はアメリカの大学で博士号を取った人が多く、アメリカでの研究経験を台湾で共有するために、近い分野内の研究室間での研究交流の機会を多く設けたりしているそうだ。実際、ISEGB もその流れの中で始まった学会の一つなのだろう。分野がひとまとまりとなって教育・研究体制を築くことは、今後の大学教育の発展に大きく貢献するだろうと考えた。

そのような大学の研究方針を反映するかのよう、交流した学生らがそれぞれに研究について熱心でとても楽しそうに紹介してくれたのが印象的だった。今回私が訪問した両研究室では、Dr. Chau-Ti Ting はショウジョ

ウバエの耐毒性の分子メカニズムを解明する研究を、Dr. Cheng-Ruei Lee はシロイヌナズナの起源を解析的アプローチから探る研究を行なっている。それぞれの研究室の学生に研究内容を聞くと、その現象自体がなぜどのように面白いのか、学生がその研究のどこまで貢献したいかという具体的な計画までわかりやすく説明してくれた。学生の研究に対する意欲に直面して刺激的だった。

数日間の訪問を通して、最新の研究内容、台湾での研究現場、また台湾の文化にも触れられて、とてもいい滞在だった。特に同世代の学生との交流で感じた刺激を忘れないように、これからの私の研究に生かしていきたい。

山下 永香（やました はるか）

茨城県ひたちなか市出身。東京農工大学農学部卒業。総合研究大学大学院遺伝学専攻（遺伝研）博士課程前期2年（2018年度現在）。ゲノム構造と分子進化に興味がある。趣味は運動（ソフトボール、テニス、フットサルなど）。

ISEGB 2018 派遣学生 活動報告書

広島大学大学院理学研究科生物科学専攻
博士課程前期2年（2018年度現在）
檜垣 友哉

私は2018年10月19日～24日までの6日間、ISEGB 2018 への参加、並びに現地の研究室見学のため、台湾を訪問しました。以下に、その体験について報告します。

ISEGB 2018

私は現在、ニホンアマガエルの地域分化に関する研究を行っています。ミトコンドリア DNA や核 DNA のデータを用いた分子系統学的・集団遺伝学的解析などによって、本種における遺伝的な地域分化のメカニズムの解明が目的です。今回の ISEGB 2018 では、本成果の発表を行いました。英語での発表はほとんど経験がなかったのですが、自分の研究の面白さを伝えようと、楽しみながら発表できたように思います。実際、既定の発表時間の終了に気づかず、「もう昼休憩だよ」と言われた時は、時間を忘れるほど活発な議論ができたのだと感じました。

研究室訪問

私が最も興味のある爬虫両生類学に携わる2人の先生を訪問できることになりました。訪問1日目、國立臺灣師範大學の林思民先生の研究室では、トカゲの体色や魅力度と免疫力の関係、カジカガエルやトカゲの分類、カメの学習能力等の研究や、外来種や飼育放棄されたペットの保護・飼育などが行われていました。夜は研究助手や学生らと共に、翡翠水庫近辺へ野外観察に行き、台湾固有の4種を含む7種の両生類を見ることができました。訪問2日目、中國文化大學の巫奇勳先生の研究室では、リュウキュウカジカガエル幼生の温度走性、ヌマガエルの塩耐性の研究や、轢死個体の保管等が行われていました。夜は再び学生らと共に、天母水管路古道近辺へ野外観察に行き、昨日見られなかった両生類4種に加え、爬虫類4種を観察することができました。両日とも、大変興味をかきたてられる、充実した時間となりました。このような夜の生物の観察という貴重な体験ができたのは、日本からの学生の対応をしてくれていた研究助手の方のおかげでした。台湾で何がしたいかを聞かれた際、「野外で両生類や爬虫類を探したい」と話すと、すぐに訪問先の先生や知り合いの学生に連絡

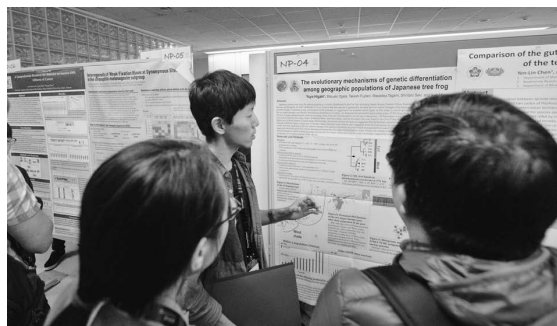


写真1：ポスターセッションにて発表を行う筆者



写真2：台湾ンアオハブを撮影する筆者

してくれました。その結果、こうして多くの方々にサポートされ、私が台湾で希望したことを最大限に実現することができました。

全体として

一人で海外へ行くのは今回が初めてでした。最初は不安もありましたが、現地の先生や学生の懇切丁寧な対応のおかげで、特に困難も無く、旅を楽しむことができました。国際シンポジウムでの発表という大きな経験ができたこと、爬虫両生類学に携わる台湾の研究者や学生と交流できたこと、実際に台湾の野生生物を観察できたことなど、振り返ると今回の滞在は非常に有意義だったと改めて感じています。短期間でしたが、今回の体験を通じて自身の英会話能力の程度が実感できたほか、様々な知見に触れることで視野が広がったように思います。再び台湾へ行く機会が得られれば、次は今回見ることのできなかった両生類・爬虫類を目指して、また彼らと共に観察に行きたいと思います。

謝辞

体験記を締めくくるにあたり、今回の台湾滞在の機会を与えてくださった、日本遺伝学会に深く感謝いたします。並びに ISEGB 2018 の関係者、現地での手続き等に関して直接お世話になった國立臺灣大學・曹順成先生、研究室訪問に際してお世話になった國立臺灣師範大學・林思民先生および中國文化大學・巫奇勳先生、そして野外観察等でお世話になった研究助手並びに学生の皆様に深く感謝いたします。最後に、私の研究全般に関して直接の指導を賜るとともに、今回の学生派遣へ応募する機会を与えてくださった、広島大学両生類研究センター・三浦郁夫先生に感謝いたします。

檜垣 友哉（ひがき ゆうや）

広島県広島市出身。広島大学大学院理学研究科生物科学専攻、博士課程前期2年（2018年度現在）。幼少の頃より日々生き物とふれあう。特に爬虫両生類が好き。

日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い

下記の規程に添って2019年度木原賞および奨励賞候補者推薦をお願いします。

【推薦書作成要領】

本誌に掲載された様式に従って作成してください。なお、同様式は遺伝学会ホームページからダウンロードしていただけます。いずれも用紙は A4 判を使用して下さい。

(木原賞) 候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文 5 編 3 部ずつを郵送して下さい。また、候補者推薦書ファイル、業績リストファイル、論文の PDF ファイルをメールの添付ファイルにてお送りください。

(奨励賞) 1. 候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文 2 編 3 部ずつを郵送して下さい。

2. 自薦の場合も同様式に従って作成して下さい。

(2010年から年齢制限はなくなりました)

また、候補者推薦書ファイル、業績リストファイル、論文の PDF ファイルをメールの添付ファイルにてお送りください。

【提出期限】

2019年5月17日（金）必着

提出先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内

日本遺伝学会 Tel & Fax 055-981-6736

日本遺伝学会会長 小林 武彦

電子ファイル送付先：Email: japgenet@nig.ac.jp

*なお、木原賞および奨励賞の受賞者には当学会誌 Genes & Genetic Systems に英文総説の執筆と、その年に開催されます大会で受賞記念講演をお願いしております。

日本遺伝学会学会賞および奨励賞に関する規程（抜すい）

（目的）

遺伝学の進歩を促し、すぐれた研究業績を一般に知らせるために学会賞および奨励賞を設定する。

（賞の種類）

1. 日本遺伝学会木原賞
遺伝学の分野ですぐれた業績をあげた者（原則として会員）に授与する。
2. 日本遺伝学会奨励賞
遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い、将来の成果が期待される会員に授与する。

（賞の内容）

1. 日本遺伝学会木原賞
賞状、メダルおよび副賞としての賞金からなる。
2. 日本遺伝学会奨励賞
賞状および副賞としての賞金からなる。

（賞の選考）

賞の選考は下記に定められた選考委員会と選考方法によって行う。

1. 選考委員会
全会員を対象として評議員会により選出された若干名と、これに会長が加わり、選考委員会を構成する。会長以外の選考委員は任期を2年とし、連続して2期（4年）をこえ選考委員としてとどまることはできない。
選考委員会の委員長は会長がつとめるものとする。
2. 選考方法
会員から推薦された候補者について選考委員が慎重に審査を行い、受賞者を決定した上で評議員会の承認を得るものとする。日本遺伝学会木原賞受賞者については原則として各年1名とするが、適当な候補者がいない場合は授賞は行わないものとする。
日本遺伝学会奨励賞については各年2名以内を選ぶものとする。

附 則

昭和57年11月20日	日本遺伝学会総会承認
昭和60年10月14日	一部改正
昭和63年2月6日	一部改正
1989年10月14日	一部改正 日本遺伝学会総会承認
1992年10月23日	一部改正
2005年4月4日	一部改正
2009年9月17日	一部改正 日本遺伝学会総会承認

2019 年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書

2019年 月 日

推 薦 者	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】

2019年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

2019年 月 日

推 薦 者 (自薦の場合、職名、連絡先は不要)	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】

【遺伝学会における活動歴】

[illegible]

注：(1) 候補者の主な発表論文のリストを別紙（紙は A4 判を使用）に掲載し、うち主要な論文 2 編 3 部ずつを郵送して下さい。ここに示した推薦書に必要な情報が記載してあれば、用紙（A4 判）は別紙でも結構です。

(2) 自薦の場合もこの用紙を使ってください。

提出期限：2019年5月17日（金）必着

提出先: 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会

TEL & FAX 055-981-6736

◆ 会 員 異 動 ◆

新入会・再入会

兼 子 伸 吾	960-1296	福島市金谷川1番地 福島大学共生システム理工学類
今 村 泰 崇	162-8666	新宿区河田町8-1 東京女子医科大学病院 循環器内科
大 保 和 之	236-0004	横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学 医学部組織学講座
富 澤 信 一	236-0004	横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部組織学
廣 田 耕 志	192-0397	八王子市南大沢1丁目1 首都大学東京 理学研究科化学専攻
花 岡 文 雄	411-8540	三島市谷田1111 国立遺伝学研究所
中 山 潤 一	444-8585	岡崎市明大寺町字西郷中38 基礎生物学研究所 クロマチン制御研究部門

(連絡先自宅のため不掲載)

平野 功

退 会

林 優衣, 松川昌生, 安部晃生, 保坂和良, 榊原祐樹, 森田正之, 大田正次, 加藤恒雄, 高島康郎, 松原京子, 野村泰治, 大田竜也, 立花 誠, 平芳一法, 孫 文, 片岡正和, 小松玉麻果, 伊川直樹, 幡基友紀, 中塚三保子, 安田 (渡邊) 仁奈

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 88	No. 12	(2018)
	Vol. 89	No. 1-2	(2019)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 48	No. 5-6	(2018)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 24	No. 5	(2018)

日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会员、シニア会員、準会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。65歳以上の普通会员は申し出によりシニア会員に資格変更できる。準会員の資格は大学学部生および高等学校等の教育機関の教員であることとする。毎年普通会员は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは初年度の会費を免除し、2年目以降は3,000円とする。定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円とする。Genes & Genetic Systems の印刷体の送付を希望しない場合には会費を500円減額する）を、準会員は2,000円を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。シニア会員は資格変更の際に30,000円の永年会費を納入することとし、以降の会費の納入は免除する。普通会员および準会員が休職および海外留学をする期間を休会とすることを申し出たときは会費を免除する。なお、シニア会員及び準会員は、会長および評議員の被選挙権を有しない。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回 Genes & Genetic Systems を発行する。印刷体は機関会員、賛助会員および希望する普通会员に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員の選挙および他の議事を行い、講演会では普通会员、シニア会員、準会員および名誉会員の研究発表をする。
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
2) 会長は、評議員が全普通会员の中から選出した複数の候補者から普通会员による直接選挙によって選出される。
3) 評議員は、普通会员による直接選挙で選出される。
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。
付則 平成26年9月8日に第5条、第7条、第8条を改正し、平成29年1月1日より施行する。ただし、Genes & Genetic Systems の印刷体の送付を希望しない場合の会費減額は、平成30年4月1日より行う。
付則 平成29年9月12日に第5条を改正し、平成30年4月1日から施行する。

Genes & Genetic Systems 第93巻6号（付録） 2019年3月15日発行 非売品 発行者 小林 武彦 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5 番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800 発行所 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内	学 会 事 務 取 扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 https://gsj3.org （電話・FAX 055-981-6736 振替口座・00890-1-217316 加入者名・日本遺伝学会） 国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。
--	--